

タブノキ	学 名 Machilus thunbergii 別 名 イヌグス
＜梣の木＞	分 類 クスノキ科タブノキ属（常緑高木） 分 布 本州、四国、九州、沖縄、朝鮮南部、中国、台湾、フィリピン 用 途 公園樹、建築・機具材、薪炭、シイタケの原木
解 説	暖地の沿海地に多く、大木は高さ30㍎、直径3.5㍎になる。樹皮は暗褐色。葉は枝先に集まってつき、長さ8～5㍎の倒卵状長楕円形で先端は少しつきでる。厚い革質で表面は光沢がある。5～6月、枝先の円錐花序に淡黄緑色の小さな花をつける。果実は直径1㍎の球形で花被が残り、7～8月に黒紫いろに熟す。
	枝・葉
	幹
	花
	実